

令和6年度白山市子ども会議 質問・答弁要旨

議長：白嶺中学校 山田 航（前半）、松任中学校 安藤 千紘（後半）

発言順	1
質問者	鶴来中学校 角永 結音
質問事項	避難所の拡充について
質問内容	白山市には一次避難場所や二次避難施設がどれだけあり、食料はどれくらい備蓄されているか。現在の状況について問う。避難所についてこれからのさらに周知していくための具体的な取り組みについて、どのように考えているか。
答弁者	笠間中学校 北崎 晴心、清水 一花
答弁要旨	避難時の食料は市全体で 2200 食×3 分の備蓄がある。避難所は一次避難場所が約 570 か所、二次避難施設が 98 か所ある。場所を事前に把握する必要が何よりも大切だ。 定期的な避難訓練のほか、防災アプリ等を活用し正しい情報をもとに混乱も防ぐことができる。中学生もマイ・タイムライン作成や避難場所を確認することもできる。

発言順	2
質問者	鳥越中学校 中川 八瑛日
質問事項	学校の部活動の今後について
質問内容	中学生がスポーツや文化活動など授業以外で経験することはとても大切なことだ。部活動は各中学校にあるが、生徒数の減少に伴って部活動の数も少なくなってきており、今後何かしらの取り組みが必要になってくる。学校の部活動について、現在の市の取り組みとこれからの取り組みについて問う。
答弁者	美川中学校 二木 星咲、小野 優月
答弁要旨	活動の選択肢を増やすために「部活動の地域移行」に取り組んでいる。地域クラブは年齢幅が広く、地域クラブで活動していくことで将来の指導者にもつながる。地域クラブ化を呼びかけ、少しずつ部活動の地域移行が進むことができればよいと考える。 中学生は「部活動の地域移行」についてあまり認知していないため、知る機会を作ることがまず必要だ。また、地域クラブの活動場所として学校をもっと利用することも考える。たくさんの方が部活動の今後について考えて理解し、広めることが白山市の将来につながると考えている。

発言順	3
質問者	白嶺中学校 加藤 尊勝
質問事項	ジオパークを広く知ってもらうために
質問内容	白山市の自然や文化、歴史などについて、魅力をさらに見つけ、市民である私たちが深く知ったり、その良さを発信していくことがこれからは必要だ。現在の取り組みとこれからの取り組みについてどのように考えているか問う。
答弁者	北辰中学校 島崎 直樹、舘 優斗
答弁要旨	たくさんの人に知ってもらうために、駅や各施設にポスターを掲示している。外国語訳のパンフレットなども作成している。また、各地区のコミュニティセンターを巡ってジオパークを学ぶ講座も現在行っている。学校ではジオパークについて調べてレポートをつくるという授業もある。 今後、中学生に向けてジオパークの良さを表現してもらったポスターコンクールを行い、駅などに飾って関心を高めたい。また、授業でTシャツを作成し、決まった日に着ることで、生徒のジオパークへの関心が高まったり、宣伝にもなると考える。

発言順	4
質問者	鶴来中学校 山田 鈴子
質問事項	生徒の意見を反映させた校則づくりについて
質問内容	学校生活を送る上で校則に従って生活している。校則はどのように決められているのかもわかりにくく生徒もきちんと見ていないのではないかと。校則に関して現在学校でどのようなことに取り組んでいるか、これからの取り組みについてどのように考えているか問う。
答弁者	北星中学校 木下 聖菜、泉 斗藍
答弁要旨	校則について生徒の意見を学校側に伝えやすい環境であるかは学校によって異なると感じる。意見が伝わりやすいと感じる学校では「目安箱」の設置や生徒中心の学級討議などが行われている。私たちは自分たちの学校の校則を理解し議論していく必要があると考える。生徒一人ひとりが校則への考えを持つことで、自分たちの意見で校則を見直し、より過ごしやすい学校生活を送ることができると思う。

発言順	5
質問者	光野中学校 北村 遥人
質問事項	快適に登下校するために
質問内容	私たち中学生の通学は、積雪の関係から自転車通学が困難になる場合バスなどの交通機関を使うこともあり、遠距離の通学をしている生徒は登下校に不便を感じる。遠距離の通学等の対応として、現在どのような取り組みをしているか、また今後の取り組みについてどのように考えているか問う。
答弁者	松任中学校 加藤 蒼、安藤 千紘
答弁要旨	冬季の自転車通学禁止期間においてバスを利用した通学を行っている。この交通費の一部を白山市から遠距離通学者補助金として出している。積雪期以外でも夏季の熱中症予防としての対応が必要になってきており、バス利用の拡充を図っていくべきである。バスはコミュニティバスを利用することが最適な案だと考えている。ルールやマナーをしっかりと守り誰もが気持ちよくバスを利用できるように周りの人たちのことも考えて行動するようになれば快適な登下校につながると考えている。

発言順	6
質問者	松任中学校 加藤 蒼
質問事項	部活動における街中と山間部の差について
質問内容	市内それぞれの中学校で部活動が行われているが、学校の規模に応じて部活動の種類に差がある。部活動の地域差は、中学生の活動のひとつであることから縮めていきたい。 部活動における街中と山間部の差について、現在の取り組みとこれからの取り組みについて問う。
答弁者	鳥越中学校 中川 八瑛日、山下 瑛大
答弁要旨	市では学校の部活動だけではなく地域のスポーツクラブも活用して生徒がやりたい部活動ができるようにする取り組みを行っている。このような取り組みにより、一人ひとりが充実した部活動をできるよう目指している。 今後の取り組みについて、学校で育友会の協力の上、SNSを使い部活動の講師を集めることを考えている。また、他校との合同練習の可能性について検討し、チームワークを深めることができることが、白山市の将来につながると考えている。

発言順	7
質問者	美川中学校 小野 優月
質問事項	ハザードマップを身近にする方法について
質問内容	自然災害による被害を予測しその被害範囲を地図化したものにハザードマップがある。これまで以上に活用されていかなければならない。ハザードマップを身近にするために現在の取り組み今後の取り組みについて問う。
答弁者	鶴来中学校 角永 結音、山田 鈴子
答弁要旨	市内地区ごとにハザードマップが配布されたり、授業でも「マイ・タイムライン」を作成している学校もあるが、中学生としては身近に感じられない。 中学校の授業で狭い範囲に特化したハザードマップを作成したい。自分たちで作ることから、理解が深まり親近感がわき、身近な地域でみんなで作成することで、一人ではできなかった避難経路の作成も促せると考える。一人ひとりがハザードマップを日常から目に入れるようになれば、他の防災への関心や興味も深まる。

発言順	8
質問者	笠間中学校 清水 一花
質問事項	みんなが学べる学習環境を作るには
質問内容	私たちはだれもが勉強したり遊んだりすることができるが、学校に来ることができない児童・生徒もいる。学校の中でも学ぶ環境に不便もある。誰もが学べる学習環境を作るにどのような取り組みを考えているか問う。
答弁者	白嶺中学校 山田 航、加藤 尊勝
答弁要旨	すべての小中学生に必要な支援や配慮を行うことが大切である。困難をもっている児童生徒と大人が多様性を互いに認め合い尊重し合う土台が必要である。 多くの学校では自習スペースが足りない状況があることから、校内のいろいろな場所にベンチや机を置き、休憩できるスペースを作ることにも可能であると考え。また、取り組みは他校とも共有することでお互いの学校でよりよい環境を作ることにもできると考える。学校に来ることができない生徒にも個別の支援が必要であると考え。

発言順	9
質問者	北辰中学校 島崎 直樹
質問事項	給食のフードロスについて
質問内容	学校生活の楽しみのひとつに給食があるが残食が多いという現実もある。食品ロスは給食の残食という身近な問題だと考えている。給食のフードロスについて、現在どのような取り組みを行っているか、今後の取り組みについて考えを問う。
答弁者	光野中学校 橋本 明俊、北村 遥人
答弁要旨	市では外部から取り入れている学校の残食量の情報を集め何が残りやすいか情報収集している。残りやすい品目の量を減らすのではなく、食べきれる時間の確保の視点が大切だと考える。食べる時間を確保し、時間に余裕をもって食べることができるフードロス減少を目指すことが最適な方法であると考えている。また、残食の量の可視化による生徒の意識向上など取り組みによって一人ひとりがフードロスに目を向けて考えたり改善のための行動ができるようにしていくことが白山市の将来になると考える。